

## 巻頭言

### 広報発行にあたって

富山大学総合情報基盤センター センター長 木原 寛  
kihara@itc.u-toyama.ac.jp

総合情報基盤センター設置から3年目となる2005年度は、三大学統合により新富山大学が発足し大学全体としてさまざまな変化と変革がありました。2006年2月の五福、杉谷キャンパスの情報システムのリプレースに併せてキャンパス間ネットワークの機能増強も行われ、それらへの準備と対応に追われた1年でもありました。

2005年度の主な活動成果としては以下のものが挙げられます。

- ・**学内ネットワークの整備:** ネットワークを高速で信頼性の高いものにするという学内の要望に応えるために、新大学の発足と SINET 接続速度の 1Gbps への増強に合わせ、ネットワーク機器の一部更新とチューニングを行いました。この結果、学内・学外接続速度は向上し、利用者の体感上もかなり改善されたのではないかと思います。
- ・**学内ネットワークの管理運営体制の充実とセキュリティの向上:** ネットワーク管理や設定業務の効率化を目的として、五福地区のネットワーク接続機器に関する調査を行い、機器の設定状態や管理責任者などを把握できるようになりました。また、ドメインの変更に合わせてセキュリティの向上を目的に研究室等で利用されているサーバの再登録申請をお願いしています。
- ・**認証基盤:** システムごとに独立で管理していたユーザ情報の一元化を行うために、LDAP サーバを導入いたしました。これによりアクセス系を含めたパスワードの同期を実現いたしました。
- ・**高速計算サーバのリプレースと新たなサービス体制の構築:** 旧システムでは障害が頻発して利用者にご迷惑をお掛けしましたが、高性能並列型コンピュータによる計算サービスを開始し、アプリケーションソフトウェアも充実

させ科学技術計算機能の充実を図りました。その一方、計算機の電力消費量の増加および法人化に伴う予算削減や利用負担金の方式の変更などによって収支バランスがくずれ、今後その対応に多くの努力を要することが予想されます。

- ・**学習管理システム(eラーニングシステム)の運用と整備:** 新たに WebCT を導入し、従来から運用している Blackboard と併せ、講習会の実施やマニュアルの整備による利用支援を進めており、本学の教育活動の改善に貢献することが期待されています。
- ・**電子教材・デジタルコンテンツ作成支援:** センターでは、電子化教材や学術情報の電子化に対する支援を行っており、今後サービスを充実させていきたいと考えています。
- ・**講習会の実施:** 16の講座を開講し多くの参加者を得ました。次年度以降も講習会プログラムを充実させていく予定です。
- ・**広報活動の体系化と活性化:** 今年度はセンターニュースを5回発行いたしました。今後は、利用者の視点から編集方針を見直しその内容を刷新していくとともに、ホームページの改革や電子メールによるタイムリーな情報提供を目指していきたいと考えています。

大学の情報基盤を支え多くの利用者にサービスを行うセンターとしては、高い情報セキュリティを確保する必要があります。今後は、個人情報保護法への対応も考慮に入れ、情報セキュリティ専門業者による業務監査の実施も必要になっていくと考えております。

また、情報セキュリティの問題は、その対応を誤ると大学全体に大きなダメージを及ぼす恐れがあるため、コンピュータウイルス対策や著作権などに関してご配慮いただき、学生への指導もよろしくお願いいたします。